

歴史学は人を描く学問で、歴史のあなたに忘れられた事件や人物に光を当てるのも、歴史学者の役割の一つです。

2013年秋に岩波書店から私の40年間の研究の集大成として出版した学術書「中東国際関係史研究」では、第1次世界大戦後のトルコを扱いました。2段組みで800ページを超え、国のリーダーの在り方も示したつもりです。中心に据えたのは、トルコのリーダーたちの中で、人々に忘れられた存在になっている軍人で政治家のキヤーム・カラベキルです。

トルコは第1次世界大戦後の列強の思惑をはね返し、敗戦国ながら領土を回復して主権を維持しました。カラベキルはトルコ東方でソ連を巻き込んだ巧みな外交を展開し、軍事的にも優れた戦略を發揮した指導者です。しかし、1923年のトルコ共和国成立後、初代大統領のケマル・アタチュルクの暗殺を企てたとして逮捕されます。無罪



にはなりましたが、公的な人生は終わりました。彼の才能を敵視したアタチュルクの嫉妬と警戒心の結果です。

私がカラベキルの最も好きなところは、民族や宗教、敵、味方に関係なく戦災孤児たちを保護し、愛と慈しみで育てたことです。48年に心臓病で亡くなった彼の墓には「孤児たちの父」という文字も刻まれています。戦争悲劇の歴史の中で、彼のようなリーダーがいたことは歴史学者として救いです。

現在の中東は、シリア、イラクの内戦、イスラエルのパレスチナ自治区ガ

やま うち まさ ゆき  
山内 昌之さん



東大学術博士。専門は国際関係史、中東・イスラーム地域研究。カイロ大客員助教授などを経て、東大大学院教授。サントリー学芸賞や吉野作造賞など受賞。紫綬褒章。現在は明治大特任教授、東大名誉教授、政府の教育再生実行会議委員など。66歳。北海道生まれ。大町市の木崎湖畔で。

歴史学者

「力」では解決できない

ザでの戦争の三つが並行し、情勢は緊張の度合いを深めています。問題の原

戦後の英国とフランスによる恣意的な地域分割です。また、アラブの独立から今日まで、民生を安定化させ、国際

事は自己のイデオロギーや権力保全で、国民の繁栄や幸福は二の次でした。他方、第1次世界大戦から1世紀が

中東の子どもたちには教育医療など各種の支援が必要です。また、戦争で人への増悪を持つて育つ子どもに、和

テロ、暴力に走る勢力もありますが、国境や領土の問題は力の論理では解決できません。48年のイスラエル建国から繰り返される悲劇は、どの国も力だけでは安全保障を達成できないという事実を示しています。

これは日本と周辺国との問題にも言えます。双方ともに屋敷高でエキセントリックな叫び声や恣意的な歴史解釈では対立を解決できません。粘り強く、冷静に、国際世論の判断を仰ぎながら、政治と外交で解決するものです。

われはカラベキルのようなリーダー、歴史に学ばなければならぬのです。